

PHONO EQUALIZER AMPLIFIER



## EAR EAR 88PB

¥723,450

**Spec** ●使用真空管:PCC83×4 ●入力:MC×1(MM切換え可)、MM×1 ●出力(スイッチ切替式):XLR×1、RCA×1 ●入力インピーダンス:47kΩ(MM)、4Ω又は40Ω(MC/出荷時指定工場セッティング) ●出力インピーダンス:60Ω ●感度(MM):2.5mV(1V output) ●チャンネルバランス:±0.2dB ●SN比:68dB(ref. 2.5mV) ●歪率:0.2%(2Vアウトプット時) ●サイズ:235W×100H×290Dmm ●重量:6kg ●取り扱い:ヨシノレーディング(株)



出力端子にXLRとRCAをそれぞれ1系統備えており、スイッチにて出力システムを選択できる

# プロ仕様機のフォノステージを独立させた 管球式フォノイコライザーの最高級モデル

出力切り替えスイッチなど  
プロ機の血統を物語る機能

EARはティム・ネ・バラヴィーチーによって1977年に設立され、管球式アンプを中心に展開し高い評価を獲得している。しかし、彼はEAR設立以前から録音スタジオをはじめとするプロフェッショナルワールドで、録音関連機器の製作やStereoなどアナログデッキのモディファイ、アナログディスクのマスターリング関連機器の設計や改良を行い高い信頼を得てきた。その経験を元にマスター音源を最高精度で再現すべく設計・開発されたのがプロ仕様のプリアンプEAR912であり、その高性能フォノステージを独立させたのが、このEAR88PBだ。

本機はMM型、MC型専用の2系統のフォノ入力を用意しているが、MC型入力はパラヴィーチーが設計し、自らの手で巻き上げたというオリジナルステップアップトランスを搭載している。この2系統のフォノ入力を使うことで、ダブルアーム仕様ターミネーターや2基のブレイヤーシステムを使用し、異なるサウンドを楽しむことができる。オリジナル設計のトランスフォーマーと4本のPCC83(7DJ8)を結合させた独自設計の管球式出力段は、正確なRIAAカーブを実現すべく安定性の高い回路デザインを採っているという。一般的なRCA不平衡の出力端子だけでなく、XLR平衡出力を備え、SWにより切り換え使用できるようになっているのがプロ機

の血統であることを物語る。

管球式では得難い精巧かつ高品位な  
最高精度のアナログサウンドを実現

今回はマイソニックラボのハイパーエミネットを使用して試聴したが、管球式では得難い広い周波数レンジと高SN比を実現したと思える、精巧かつ高品位なアナログサウンドが構築された。ローエンドもスムーズに伸び、ウッドベースの胴鳴りや低音部の空気感なども鮮明かつ自然に引き出してくる。45回転、重量ディスク化された「ミステイ/山本剛トリオ」のイントロ部のピアノは静寂の中から明快なタッチのシングルトーンがストレスなく立ち上がる。また「Hydra/Too」ではヴォーカル以外は同時録音されたという作品だけに、一体感のある緻密なサウンドが忠実に甦り、ヴォーカルの表情やドラムスのタム類のパワフルな連打も生々しさがあふれる。「ロミオ&ジュリエット」はダイレクトディスクならではの鮮度感と情報量を少しも損ねることなく再現された。弱音部の静けさや繊細な響きを正確に再生し、Dレンジの限界を超えるかと思えるトゥワッティは、エネルギー感がリアルでありながら荒れた響きを聴かせない。

最高精度のアナログサウンドを手に入られる製品であり、音量調整機構を備えているのでアナログ再生に特化するならプリアンプなしで使えることを考えると、価格においても特に高い出費とはいえないだろう。

TEXT  
小林 貢  
Mitsugu Kobayashi

Photo by 田代法生